

話を聞く前は「がんになったらうほほ死ぬ」「かわいそう」とマイナスなイメージをもってしまっていたけれど、実際の話や思い、様子を聞かせてもらったときに「かわいそう」ではなく、向き合うことが大事ということが分かりました。もし同じ学年やクラスなどの身近なところで「がん」になった子がいたら、その子だけ特別ではなく周りの子と同じように話したり遊んだりしていきたいと思いました。

もし、クラスにがんの友達がいいたら、特別やさしくするんじゃなくて、みんなと同じように接すればよいと分かりました。また、がんのことを忘れられるぐらい、楽しくすごせたらよいと考えました。がんは、大人の病気というイメージがあったけど、子どももがんになるということを初めて知りました。入院して、知らない人ばかりだと不安で、悲しい気持ちになると思います。その時に、手紙などで元気づけられたらいいなと思います。



# がん教育 ハンドブック

外部講師を活用した  
がんの授業のススメ

変にとくべっあつかいしない  
ふつうにせつする  
なかよくする  
手助け  
声かけ



「いつも通り接すれば良いんだ」

「リアル感が増した」

ご依頼の流れを  
わかりやすく

「怖いイメージだったけど周りの協力が  
大切というイメージが変わった」

授業の実例  
生徒の声も紹介

「正しい知識をもっていれば落ち着いて  
行動できるとわかった」(生徒の声より)

(先生の心の声)

どうやって  
授業準備  
したらいいの？

このハンドブックは、がん経験者外部講師が提供する授業の形や外部講師の紹介、ご依頼方法など、がん教育の授業を実施するにあたって必要となる具体的な情報を掲載しています。先生方の疑問や不安を解消し、がん教育を作り上げるためのツールとしてご活用ください。

目次	がん教育?・・・ 3
	がんの授業をしよう・・・ 9
	こんな授業をしました・・・13
	よくある質問・・・22
	私たちがお手伝いします・・・23
	授業を終えて一言・・・28
	がん教育関係連絡先・・・30

なんで？

がん教育？



石川県がん安心生活サポートハウス  
石川県教育委員会保健体育課  
石川県健康福祉部健康推進課

## なぜ がん教育？

石川県がん安心生活サポートハウス  
がんサロンつどい場はなうめ

### つどい場はなうめとは？

石川県がん安心生活サポートハウスは2013年に石川県のがん対策推進のために、石川県済生会金沢病院に委託された事業です。病院ではなく県社会福祉会館の一室にある、がんサロンつどい場はなうめの運営を中心に、がんを経験した方やその周辺の方の「がんとともに生きる・がんを経験して生きる」を応援しています。

### がんサロンとは？

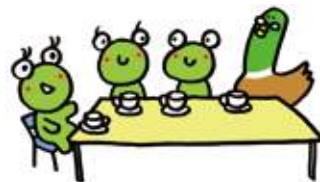
がんを経験した方やご家族、関係者などが利用するピアサポートの場です。ピアとは仲間という意味でがんという病気を経験した人同士で支え合う場ががんサロンです。石川県でははなうめ以外にも病院や地域にもさまざまなピアサポートの場があります（「いしかわのがんサポートブック」参照）。はなうめでは利用された方が「自分にもできること（ココロやカラダのセルフケアや医療とのかかわり方）」を見つけたり「ひとりじゃない」ということを実感して、がんとともに生きる知恵や勇気を得てゆく場となることを目標としています。

### 自分の経験が誰かの力になる

はなうめではがんを経験した方がご自身の経験を語る「がん体験はなし隊」も養成しています。自分自身の経験をあらためて整理し、それをお話するトレーニングも経て、地域向けの無料出張講座（がんのこと知っときたい講座）や企業や専門職の研修会などで活動しています。「がん体験はなし隊」はがんの経験は決して楽なものではありませんが、いろんなプロセスと時間を経て「自分の経験が誰かの力になればうれしい」と感じて受講して下さった方々です。

### 尊厳を持って安心して生活できる 住み慣れた地域社会へ

がんになっても自分が大切にしたいことを周りも同じように大切にもらえること。特別扱いではなく正しい理解とほんのちょっとの配慮があること。そんなことがごく自然に根付く地域づくりに向けて、実際にがんを経験した方の「リアリティ」が持つ力を教育現場に活かしていただけると幸いです。



## がん教育とは

石川県教育委員会  
保健体育課

生涯のうち国民の2人に1人がかかると推測されるがんをめぐる状況を踏まえると、学校における健康教育においてがん教育を推進することは健康教育を推進するうえで意義のある事です。

学習指導要領においても、中学校及び高等学校では「がんについても取り扱う」こと、小学校でも「病気の予防の学習でがんに触れるようにする」と明記され、がん教育が本格的にスタートしています。

### 1 がん教育の定義

がん教育は健康教育の一環として、がんについての正しい理解と、がん患者や家族などのがんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通して、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図る教育です。

### 2 がん教育の目標

- ・がんについて正しく理解することができるようにする。
- ・健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする。

### 3 がん教育の具体的な内容

- ①がんとは（がんの要因等）
- ②がんの種類とその経過
- ③我が国のがんの状況
- ④がんの予防
- ⑤がんの早期発見・がん検診
- ⑥がんの治療法
- ⑦がん治療における緩和ケア
- ⑧がん患者の生活の質
- ⑨がん患者への理解と共生

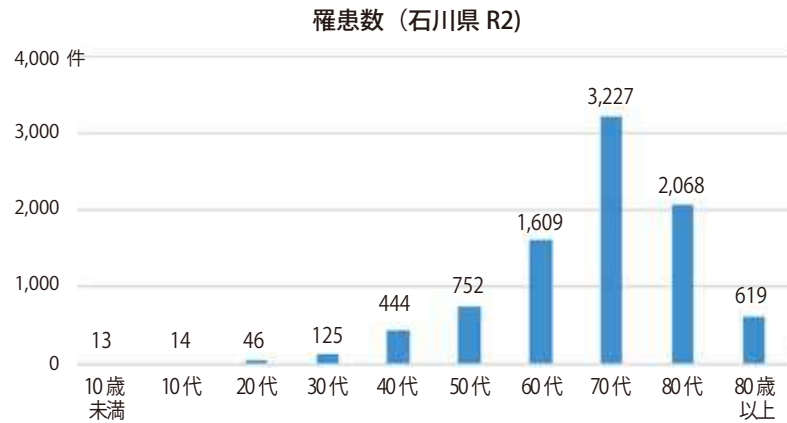
①～⑨の内容を適宜関連づけて、理解できるようにする。また、それぞれの内容を関連づけて、一次予防（生活習慣の改善等）、二次予防（がん検診等）について理解できるようにする。現在及び未来に直面するがんに関する課題に対して、適切な思考・判断を行い、自らの健康管理や健康的な生活行動の選択ができるようにする。

がんを学ぶ  
がんを通して学ぶ



出典：学校におけるがん教育の在り方について（報告）  
外部講師を活用したがん教育ガイドライン 文部科学省

## 知っていますか あなたのまわりのがん事情

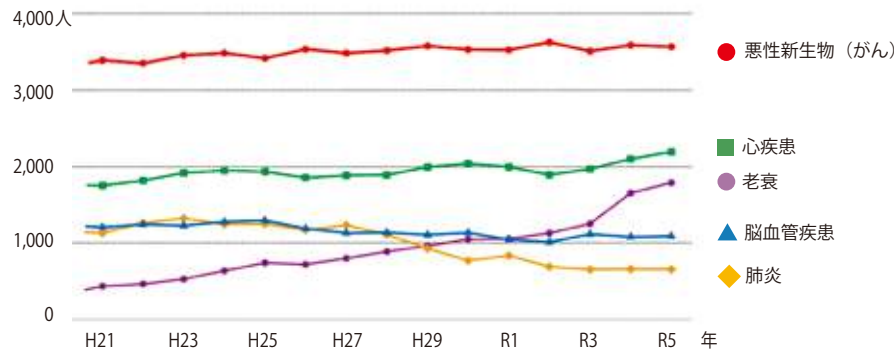


出典 がん情報サービス「がん統計」(全国がん登録) (国立がん研究センター)

### がんは身近な病気です

石川県では毎年約9,000の方ががんに罹患しています。そのうち、約7割を70歳以上の高齢者が占めていますが、10代以下の方も毎年約30人程度のがんの診断を受けています。がんは死因の第1位であり、3人に1人ががんで亡くなると言われています。石川県では毎年3,000人以上ががんで亡くなっており、がん対策は非常に重要であると言えます。

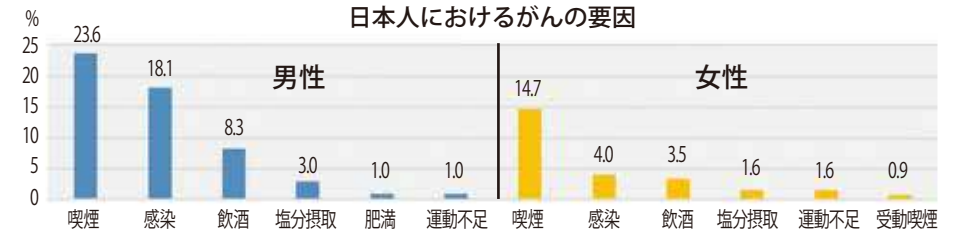
主要死因死亡数の年次推移（石川県）



出典 人口動態調査(厚生労働省)

### がんのリスクを下げる方法

がんの発生は生活習慣と深い関わりがあります。「禁煙」、「節酒」、「食生活」、適度な運動を行う「身体活動」、「適正体重の維持」といった生活習慣やB型・C型肝炎ウイルスや子宮頸がんの原因となるHPV（ヒトパピローマウイルス）の「感染対策（検査やワクチン接種）」を実践することにより、がんになるリスクを低くしていくことができます。

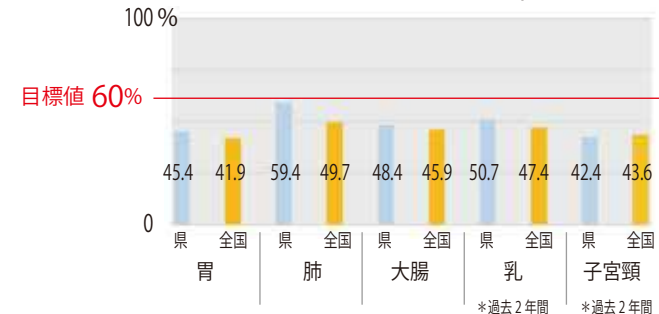


Inoue M, et al. Burden of cancer attributable to modifiable factors in Japan in 2015. Glob Health Med. 2022; 4(1): 26-36. より国立がん研究センターがん情報サービスが作成したものを一部改変

### 早期発見・早期治療の重要性

国が推奨しているがん検診（胃がん、肺がん、大腸がん、乳がん、子宮頸がん）では早期にがんを発見すれば9割近くの方が診断から5年後も生存していると言われています。早期に発見できれば、治療の選択肢がぐっと広がり、身体への負担も抑えられます。しかし早期がんとして発見できる期間は短期間であり、自覚症状が出るのはその後であることから、早期に発見するには無症状のうちから定期的ながん検診を受診する必要があります。その一方で、石川県のがん検診受診率は目標としている60%を達成していないのが現状です。

がん検診受診率（R4）

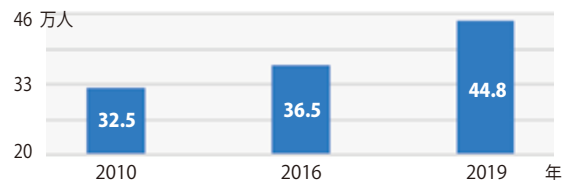


出典 県民健康・栄養調査(石川県)、国民生活基礎調査(厚生労働省)

## がんの治療を続けながら社会生活を送る人が増えています

がん医療の進歩によりがん患者の5年生存率は上昇しています。また入院治療だけでなく外来での治療へのシフトが進んでいることから、治療を行いながら職場や地域で社会生活を送る時代になりました。がん患者やその家族の方が尊厳を持って安心して生活できる住み慣れた地域社会にするためには、一人一人ががんに関する理解を深める必要があります。

仕事をもちながら悪性腫瘍で通院している者（全国）



出典「将来を見据えたがん対策の実現に向けた議論～議論の背景～」資料（厚生労働省）

## がん対策におけるがん教育の位置づけ

～誰一人取り残さないがん対策の推進に向けて～

石川県では「石川県がん対策推進条例」並びにがん対策基本法に基づく「石川県がん対策推進計画」を策定し、がん対策を行っています。令和6年8月には「誰一人取り残さないがん対策の推進によりがんを知りがんを予防すること、適切な医療を受けられる体制の充実、がんになっても尊厳を持って生きることができる地域共生社会の実現を目指す」として「第4次石川県がん対策推進計画」を策定し、がん教育をがん対策の3つの柱（予防・医療・共生）を支える基盤として位置付けています。

## がんの正しい知識を得るために

がん教育の実施にあたりさらに知識を深める際には、下記の国立がん研究センターの情報や県の情報をご参照ください。



### ▷国立がん研究センター「がん情報サービス」

がん情報サービスでは科学的根拠に基づく信頼性の高い情報を提供しています。



### ▷石川県がん対策

石川県のがんの状況やがん対策について掲載されています。



### ▷石川県がん安心生活サポートハウス はなうめ

地域で生活するがん患者等をサポートする施設です。  
がんピアサポーターの活動の実際について知ることができます。

かんたん /

# がんの授業を しよう



提供できる授業のかたち

外部講師を活用したがん教育について

ご依頼から当日までの流れ

## 提供できる授業のかたち

外部講師が経験しているがんは人それぞれ、罹患年齢も家族構成も多様です。がん患者とその家族ならではの唯一無二のストーリーをお伝えしています。授業の形は学校のご要望に応じて共に作ってまいりますので、ご依頼の際にはぜひご要望をお聞かせください。がんの知識については、医療者監修のもと作成され、文部科学省の「がん教育推進のための教材」に準拠しています。



## がん体験はなし隊について

ご自身またはご家族のがんの経験をさまざまな講座でお話しするボランティアです。石川県がん安心生活サポートハウスでは2013年の開所時から「はなし隊」を育成しています。2025年現在8名が登録、がん教育外部講師として必要な講義も受講しています。

【これまでの活動】がんのこと知っときたい講座（企業、地域包括支援センター、公民館、大学などから依頼を受けて看護師とともに活動している無料出張講座）／医療福祉関係者の研修会／がん検診啓発活動／小中高等学校でのがん教育外部講師



## 外部講師を活用したがん教育について

児童生徒が健康と命の大切さについて学び、自らの健康を適切に管理するとともに、がんに対する正しい知識、がん患者への理解及び命の大切さに対する認識を深めることが大切です。これらをより一層効果的なものとするため、医師やがん患者・経験者等の外部講師を活用し、児童生徒にがんの正しい知識やがん患者・経験者の声を伝えることも重要です。

外部講師の活用については、授業を行う先生が、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力は何かを踏まえて、「誰に、どのような内容の話をしてもらうか」など、授業のねらいを明確に持つことが大切です。

外部講師を活用して、子供たちの心により響く授業と一緒に考え、実践しましょう！

### 授業例 1

### 授業例 2

### 授業例 3

教科	保健体育 (50分)	特別活動 (45分)	道徳 (45分)
講師	医療関係者	がん経験者	がん経験者の親
事前学習	病気について知識の習得 生徒にアンケート (保護者に配慮事項確認)	生徒にアンケート	小児がんについて簡単に学ぶ
授業当日	前時の振り返り (2分)	前時の振り返り (2分)	前時の振り返り (2分)
導入	自己紹介 「 <b>早期発見でがんは治るのか</b> 」 (10分)	自己紹介 (3分) 事前質問に講師が回答する (15分)	自己紹介 (1分) 「小児がんの子を持つ親」
展開	調べ学習 & グループ協議 「 <b>なぜがん検診受診率が低いのか</b> 」 (10分)	疑問を持ったことについて調べる (10分)	①「 <b>子どもががんになった時、治療中の子どもの様子と親の思い</b> 」 (10分) ペアで感想や質問を共有→グループで共有 授業担当者と外部講師は机間指導しながら質問を拾う (10分) 質問に答える (7分)
まとめ	感想を書く (3分)	感想を書く (3分)	自分の思いを皆で共有、感想を書く (5分)

こんな授業  
どうでしょう？

文部科学省では9つのモジュールを紹介しています。その中から内容を選んでいただき、授業を進めることも可能です。

がん教育共有サイト  
「がん教育プログラム」



## ご依頼から当日までの流れ

案内が届く  
（3月上旬）

保健体育課から各学校へメールにてご案内しますので校内でご検討ください（時期、希望講師、内容等）できるだけ授業実施日の3ヶ月前までにお申し込みをお願いします。

お申し込み  
約3ヶ月前

ご依頼はフォームから申してください。学校名、対象学年、人数、科目名、目的、実施時期、授業に対するご要望、ご担当者名、ご連絡先（電話番号とメールアドレス等、各項目）をご記入ください。

石川県教育委員会 保健体育課  
kenkouyouiku@pref.ishikawa.lg.jp

窓口

講師決定  
約2ヶ月前

ご依頼の講義内容に基づいて最適な外部講師のマッチングを行います。外部講師をご指名いただくことも可能ですが、ご希望に添えない場合もございますのでご了承下さい。

準備

児童生徒への事前アンケート（before）を実施していただきます。配慮が必要な生徒がいらっしゃいましたらお知らせください。

打合せ  
15ヶ月前

外部講師、担当スタッフと学校のご担当者様と日程調整し、打ち合わせを行います（対面またはオンライン）。当日の授業を想定したすり合わせを行い、ご希望に沿った講義内容を組み立てます。より良い授業にするために丁寧な打ち合わせを大切にしています。

授業当日

授業終了後、事後アンケート（after）を実施、保健体育課に提出していただきます。

\*事前・事後アンケート様式は申込後に保健体育課より送付いたします。

実践例

# こんな授業を しました

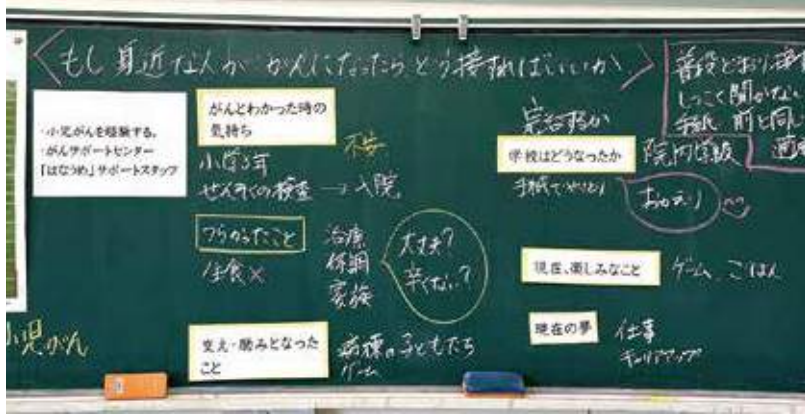


金沢市立 四十万小学校  
金沢市立 紫錦台中学校  
石川県立 工業高等学校  
石川県立 金沢北陵高等学校

日時	R6年 11月 21日	時間	45分	授業者	教諭、経験者
人数	25人	場所	教室	内容	がん患者への理解と共生
対象	6年生	教科	道徳	講師	ともき（経験者）

**授業のねらい**

「がん」と向き合う人の話を聴くことで、がん患者との関わりや自他の健康と命の大切さについて考えることができる。



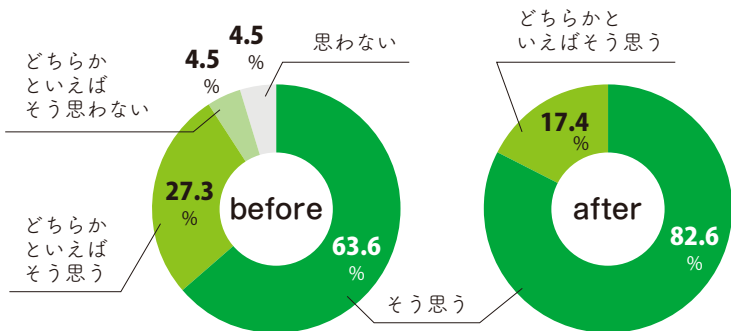
**流れ**

- 導入** 10分  
前時の振り返り  
本時の課題をつかむ
- 展開①** 20分  
講師紹介と話  
教師の質問に講師が答える
- 展開②** 10分  
がんと向き合う人への関わり方について考える「もしクラスでがんの友達がいいたら何ができるかな」
- まとめ** 5分  
本時の振り返り



**アンケート**

がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたい



**感想**

**生徒**

大人の方ががんになった時でも辛いし苦しいだろうと思ってたけど、小児がんになったら学校も休まないといけなし、大人と同じように辛い治療を受けないといけなしで大変だったと思う

辛い経験をしたことを人前で話すことは大変なことだけど、そのおかげで自分たちはそのことについて知ることができた

これからいろいろな病気や障害をもった人と出会うと思うので、そういう人がいたら、一緒に付き添ってあげたり声をかけて優しく接してあげたいと思いました


私は看護師になりたい  
とっていて、ともきさんの話を聴いて、がんや心臓病などの子どもたちに笑ってもらえるさみしい思いをさせない看護師になりたいと思いました

もしクラスにがんの友達がいいたら特別に優しくするのではなくみんなと同じように接すればよいと思いました

がんのこと忘れるくらい楽しく過ごせるようにしてあげたい

**教師** 病気に対し怖さや不安を感じている反面、自分がかからないと思っている児童も一定数いることがわかりました。同年代にがんを経験した方に話しをしてもらうことはイメージしやすかったのではないかと思います。また、外部講師の方との事前打ち合わせが大事で、教師が児童に考えてもらいたい思いと、がん患者の方が伝えたい思いをすりあわせることで実感を伴った理解へとつながっていくように感じました。学習後の振り返りでは、がん患者だけが特別なのではなく、様々な病気の人に対して思いやりをもつこと、相手の気持ちを考えて発言することが大切など、普段の生活の中で、誰に対しても思いやりをもって接すること大切だと考えを広げられた児童も多くいました。がんやがん患者へのネガティブなイメージを減らしたいと思って授業を進めていたので、とても有意義な時間になりました。

**講師**



はじめは緊張していたけど、聞こうとしてくれる姿勢が伝わり段々と素の自分で話すことができました。改めて自分でも「こうしてほしかったんだなあ」とか「こう思ってたんだなあ」と振り返ることができて良かったです。



# 金沢市立 紫錦台中学校

日時	R6年11月19日	時間	50分	授業者	教諭、医師
人数	30人	場所	教室	内容	がんの予防
対象	2年生	教科	保健体育	講師	矢野聖二（金沢大学医師）

## 授業のねらい

自己の課題を発見するとともに、習得した知識を活用し、生活習慣病を予防するための方法等について、互いに伝え合っている。

## 講師の話の内容

がんの現状・予防・治療

## 流れ

### 導入

8分

がんのイメージ、がんに関するクイズ、講師紹介

### 展開①

15分

講師の話  
まずは「がん」を知る

### 展開②

15分

調べ学習  
講師の話聞いてもっと詳しく知りたいことを調べる

### 展開③

7分

調べたことをグループで共有する

### まとめ

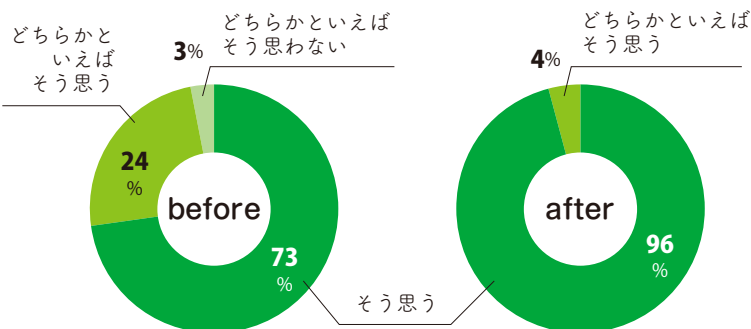
5分

3つの視点でまとめる  
(現状、予防、治療)



## アンケート

がんの学習は  
健康な生活をおく  
るために重要だ



## 感想

生徒



がんは日本人の  
**2人に1人**が  
かかるなど自分にも関係  
ある病気だと  
知りました

がんは思っていたより恐  
ろしい病気だったけど  
**思っていたより  
治療法があった**  
ので安心しました

あまり身近に感じたことが  
なかったけど  
**日本人として通る道**  
なのだと感じたし、苦しい  
思いをしないように定期的  
に検診していきたいです

遺伝のがんは  
**20人に1人**くらい  
の割合と聞いていて  
それが印象に残りました

教師

矢野先生の話やスライドが生徒にも興味がわくよう工夫されていて、みんな意欲的に取り組んでくれた。授業では、がんにつながる生活習慣のことや検診等の大切さについて触れることはできたが、日本は現状として、受診率が低いことについては触れられなかった。日本の受診率の低さの実態についても生徒に理解させ、将来、受診しようという気持ちになるような授業にもチャレンジしていきたい。

講師



普段なじみのないテーマだったと思いますが、興味を持って聞いてくれた生徒が多かったと思います。今回の授業が家族内で生活習慣を改善したり、検診受診のきっかけになれば幸いです。また、県内の多くの先生方に聞いていただいたことにより、さらになんか教育が広まることを期待しています。

# 石川県立 工業高等学校

日時	R6年11月20日	時間	50分	授業者	教諭、経験者
人数	40人	場所	教室	内容	がん患者の生活の質
対象	1年機械システム科B組	教科	保健体育	講師	はし（経験者）

## 授業のねらい

がんと向き合う人々と関わりを通じて、自他の健康の大切さに気づき自己の在り方や生き方を見つめ、自身の意見や考えを説明できる。

## 講師の話の内容

がんの発覚と初期治療、家族の反応、治療の過程、大変だったこと



## 流れ

### 導入

8分

がんのイメージとクイズ、PPK,NNKの考え方を知る。グループ活動で意見の共有

### 展開①

13分

講師紹介と話「がんの発覚と初期治療、家族の反応、治療の過程、大変だったこと」

### 展開②

5分

がんの治療法と緩和ケア

### 展開③

12分

現在の活動とご自身の生き方について

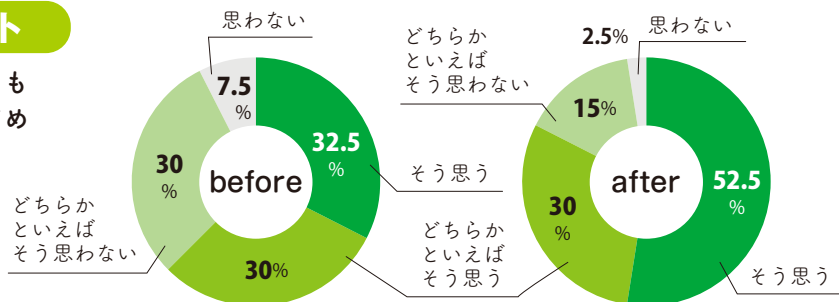
### まとめ

5分

本時のまとめと振り返り

## アンケート

がんになっても生活の質を高めることができる？



診断前の考え方を捨てて新しい考え方を持つと気が楽になる

気持ちのダメージが大きくても、自分の考え方を考えることで、生活の質は前よりもマシにはなると思いました。

## 感想

元通りを目指さなくても

今の自分にとってより良い生き方をすることができれば生活の質は高められると思った

がんになってしまったら生活の質は絶対落ちると思っていたが、考え方や意識で生活の質を高めることはできると感じた

1つの考え方にこだわらなくても自分の視点や意識を変えるだけで自分の人生をより充実させることができる



生徒

がんがかった

がんには個人差がある

精神にも大きなダメージを受けた

入院が必要だとわかった

## 教師

がん教育は今後の生徒の人生、そして日本社会においても非常に大切な内容であり、外部講師と協力した授業は生徒たちに学びや思考をより深めるためにとても効果的だと思いました。今回がん経験者の方に授業に参加していただき、いつも賑やかな生徒たちが真剣に話を聞いたり話し合う姿を見て、生徒の心に残る授業になったと実感しました。

## 講師



前半で当時の気持ちを話すと生徒さん達が食い入るように聞いてくれた感触でした。生徒さん達にとって授業開始前に想像していたものという意味で違っていたのかもしれませんが。後半はがんそのものではなく自分の暮らしや価値感や心持ちにソフトしてお伝えしました。どちらも僅かでも生徒さん達の参考になってもらえると嬉しいです。

番外編

# がん患者さんと共同プロジェクト

石川県立 金沢北陵高等学校

期間	令和3年～	対象	3年生(工業系列、生活福祉系列、ビジネス系列)
人数	毎年15人程度	科目	3年次生テーマ研究

授業のねらい

大学や企業と連携し、日常生活に困難を抱えている方々のサポートとなる福祉用具の開発活動を通じて、課題解決力を身に付ける。さらに多様なニーズに触れることで柔軟な対応力と課題解決力を持った人材育成を目指す。

## 取り組み

### 協力機関の見学

インタビュー 出張授業

### 制作内容の選定

ヨーグルトの容器を開けやすくする道具  
開けやすい容器の検討

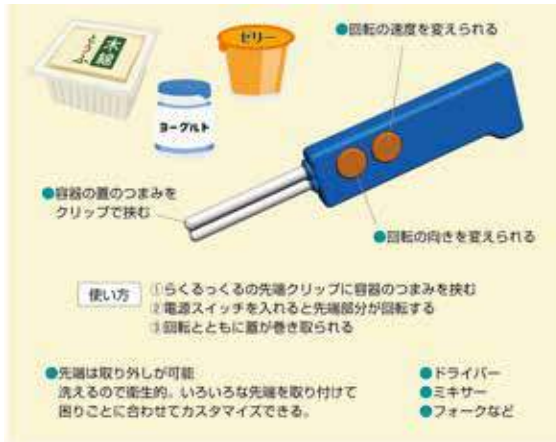
自助具の案 容器の制作

試作品に関してがん患者にアンケート・インタビュー

試作品の調整  
コンテスト応募

2023年度20回 日本福祉大学  
福祉用具アイデアコンテスト 優秀賞

令和6年度  
パテントコンテスト 優秀賞



協力機関

- 石川県がん安心生活サポートハウス
- 石川県工業試験場
- 石川県リハビリセンター
- 金沢福祉用具プラザ
- 金城大学
- (株)ホリ乳業
- 馬場化学工業株式会社
- ヨシタデザインプランニング



生徒

外部の機関と関わることで、自分たちだけでは気づくことのできない視点を知れた

患者さんの声を聞く機会を設定してもらえたので、当事者の本当の声を知ることができた

道具づくりを通して、がんについても知るきっかけとなった

感想

患者

自分たちの経験が授業の役に立つことがうれしかった

困っていることに興味を持ってもらえてうれしかった

商品化してたくさんの方に使ってもらえるとよい

日ごろ高校生と接する機会はないので、それだけで元気がもたらえた

教師

ものづくりのプロセスだけではなくがんについて学ぶきっかけとなった。患者さんの声は、生徒たちにとって新たな発見となり、よいものづくりに繋げようとする力となっているようだった。

## よくある質問

### 外部講師への講師料や交通費は？

がん経験者については別途対応していますので学校側の準備は不要です。医療関係者については各学校の規定に基づいて決定してください。

### 生徒に不安を与えることはありませんか？

病気の怖さを強調することはありません。心配な点がありましたら事前の打ち合わせの際にご相談ください。

### 生徒から講師に質問することはできますか？

大丈夫です、講師は研修でQ&Aの対応を学んでいます。個人の経験をもとに誠意をもってお答えいたします。

### 身内または自分自身ががんを経験した生徒がいます

事前の打ち合わせで必要な配慮について話し合います。

### 関心はあるのですが時間的余裕がありません



石川県教育委員会  
がん教育

できるだけ学校側の負担を最小にできるよう、また、事前の打ち合わせはオンラインで行うことも可能です。すでにさまざまな実践例がありますので、参考にしてください。

### どんな教材がありますか？



文部科学省  
がん教育推進のための教材

石川県内のデータなどこちらから提供できるものもありますので打合せの段階でご相談ください。

その他、ご不明なことがあればお気軽にご連絡ください

紹介します

# 私たちが お手伝い します



## がん体験 はなし隊とは

ご自身またはご家族のがんの経験をさまざまな講座などでお話しするボランティアです。石川県がん安心生活サポートハウスでは2013年の開所時から「はなし隊」を育成しています。2025年現在、がん教育の外部講師として**8**名が登録、がん教育外部講師として必要な講義も受講しています。

めっちゃ /

ちょっぴり /

# リアルで深い話 させていただきます

わたしたち  
(がん体験)  
はなし隊

自分ががんだとわかった時の気持ち、家族や周りの反応、絶望を乗り越えた今、思うこと…

人前で話し伝えるトレーニングを積み重ねた「はなし隊」が実体験を元にお話しします。お役に立てていただけましたらうれしいです。

伝えたいメッセージ

- ① 自分の体験に関すること
- ② 自分にとってのがん教育



やまさん  
(50代男性)

学校内にもがんの治療中や過去に経験した人が増えています

- ① 自分の子ががんだと分かった時の気持ち、困ったこと
- ② 小児がんは希少がんですがサバイバーも増えていること  
知って欲しいです

神経芽腫・罹患年齢 2 歳 (息子)

## 理解すれば怖くない

- ① 小児がんを患った時の自身や周囲の変化
- ② 上手く付き合っていくのだと伝えたいです

ともきさん  
(20代男性)

急性リンパ性白血病・罹患年齢 9 歳



さとさん  
(50代女性)

がんを正しく理解し がんになっても自分らしく愉しみながら生きる

- ① がんの治療体験、その時の想い
- ② がんと共に生きるとはを考える

乳がん・罹患年齢 38 歳

## 自分の人生をどう生きるか考える 一助にしてくれるとうれしいです

- ① がんになってもできること！助けてほしいこと！
- ② 一度きりの人生を悔いなく楽しく生きる！

ともともさん  
(50代女性)

乳がん、リンパ節郭清・罹患年齢 48 歳



温泉好きさん  
(60代女性)

## 誰かが罹患したら応援者になり 自分が罹患したら周りを頼って

- ① がんになって自分も周りも大事にできるようになりました
- ② 若い人達とがんについて話すことで自分も得られる事が多いと思っています

卵巣がん・罹患年齢 48 歳



おふじさん  
(60代女性)

## 今生きていること すべてに感謝

- ① 早期発見 早期治療
- ② がんを経験し生きるを考える

子宮体がん、乳がん・罹患年齢 52 歳



はしさん  
(60代男性)

## 人によってすごく違うことも頭の片隅においておいてください

- ① 生き方が変わることもあります
- ② 人に支えてもらうことは人を支えることにもつながります

膀胱がん・罹患年齢 51 歳



みっこさん  
(60代女性)

## がんになってもその人らしく生きる 周りの理解や協力があると嬉しいです

- ① がんは誰でもなる
- ② 1人で悩みを抱えこまず同じ経験した仲間と語り合う

乳がん・罹患年齢 41 歳

## 医療関係者



龍澤泰彦  
(ニックネーム：マスター)

## 決して他人事ではないがんについて一緒に学びましょう

治療や日々の生活について、患者さん・ご家族の方と一緒に考えていきたいと思っています

石川県済生会金沢病院副院長  
石川県がん安心生活サポートハウス所長



松田紗衣香  
(ニックネーム：しらやまさん)

## 病気や治療を知りどう向き合うか、一緒に考えましょう

- ① 人生に関わる病気になったとき、心と体の辛さを和らげ自分らしく生きることをサポートします
- ② がんについて正しく理解し、向き合う力をつけること

公立松任石川中央病院 看護部  
緩和ケア認定・特定行為看護師

他にも、医師、看護師、リハビリ理学療法士、管理栄養士、放射線技師など、トレーニングを受けた医療関係の登録者が **46** 名おります。がん経験者と医療関係者の組み合わせも可能です。

協力機関：

加賀市医療センター、小松市民病院、芳珠記念病院、公立松任石川中央病院、金沢大学附属病院、金沢大学大学院医療保健学総合研究科、金沢大学医学系、金沢大学附属病院がんセンター、金沢大学がん進展制御研究所、県立中央病院、金沢医療センター、金沢医科大学病院、金沢赤十字病院、石川県済生会金沢病院、恵寿総合病院、公立能登総合病院、萌の会など

ゲストティーチャーの言葉は

# グッとくる

ものがあつた。子どもたちもしっかり聞いていた

## 小学校先生

小児科の先生は

子どもに伝えるのがとても上手でさすがだった

ークラスだけではなく別のクラスでも  
**配信などで共有**したい

教師よりも外部講師の方が**影響力大きい**

スポーツに例えると外部講師は

**プロの選手のようなもの**

**1時間ではもったいない**と感じた

小学校はがんの知識、中学校は生活の振り返り、高校は病気を経験してどう生きるかという風に小中高で系統的にやっているとよいと感じた

## 中学校 高等学校 先生

子育てのヒントにもなりそうでPTAなど**保護者も話を聞く機会があるとよい**  
(子どもが小児がんを経験した方の授業を聞いて)



先生からの資料にしても

自分たちのリアリティにしても

## ビジュアルが大事

(写真やウィッグなども効果的)

自分たちの話の前にがんについての知識があるとよい

## がん経験講師

自分たちだけが届けられるものは

**感情**を伴う**経験**という

## リアリティ

半構造的な枠組みの中で「これを話してほしい」というところが決まるのが大事なので事前の打ち合わせが大事

## 関係者のみなさま

**授業を終えて一言おねがいします**

## 短時間でフォーカス

を当てて話すことが求められる

生徒との**一体感**楽しかった

学年またいで**シリーズで**やれるとよい

## 医療関係講師

## がん教育関係連絡先

ご不明なことがあればお気軽にご連絡ください

### 「がん経験講師」 に関すること

どんな準備がいる？  
気を付けることは？

#### 石川県がん安心生活サポートハウス がんサロンつどい場はなうめ

金沢市本多町 3-1-10 県社会福祉会館 3 階

☎ 076-234-2108

✉ tsudoiba@saiseikaikanazawa.jp



### 「がん教育」 に関すること

講師を活用した授業？  
授業の組み立て方？

#### 石川県教育委員会 保健体育課

金沢市鞍月 1-1 行政庁舎 18 階

☎ 076-225-1847 (健康教育課)

✉ hokentaiiku@pref.ishikawa.lg.jp



がん授業窓口

### 「がん」に に関すること

データが欲しい  
現状を知りたい

#### 石川県健康福祉部 健康推進課

金沢市鞍月 1-1 行政庁舎 9 階

☎ 076-225-1437 (生活習慣病対策グループ)

✉ kennsui@pref.ishikawa.jp



○クラスでがんの友達がいたらあなたはどう行動しますか。

・クラスでがんの友達がいたら私は、ふいだん通りの声かけをして、がんの友達が、また教室で笑って過ごせるように、サポートしたいと思いました。

私は、今日の授業を受ける前まで、がんはかかたらほとんどの場合亡くなってしまおうと思っていたけど、先生のお話を聞いて、がんは思ったより身近で、生活習慣が理由でなくてもかかることがあること知りました。それに、小児がんはかかた子のほとんどが学校に行けるようになるって聞き、少し安心しました。自分の子どもがもし小児がんになっても、自分を責めず、そばにいてあげたいと思いました。それは身近な人みんなに言えると思うので、もしそうなってもふつうに接してあげたいです。

- ・少しでもさみしくないようにする (手紙)
- ・あたたかくむかえる ・前と同じように接する
- ・がんのことを忘れてしまうくらい楽しいことをする
- ・困っていることをきく ・やさしく接する
- ・みんなと同じように接する



がん教育ハンドブック 2025年3月発行 第1版

【作成・発行】石川県がん安心生活サポートハウス がんサロンつどい場はなうめ

【情報提供】石川県健康福祉部 健康推進課 / 石川県教育委員会 保健体育課

【イラスト・デザイン】 tsukapon studio (塚本敦也)